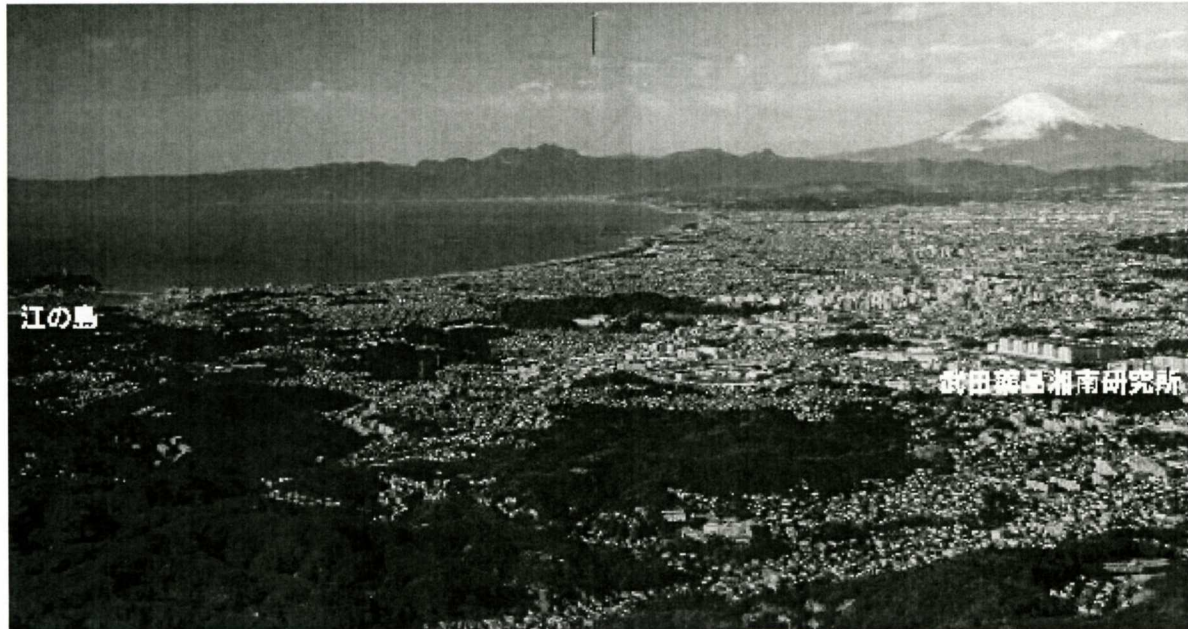


安全って、本当ですか？

2011年8月6日
ニュース第14号

武田薬品湘南新研究所を問う！

(発行): 武田問題対策連絡会 <http://www.shounan.biz/>



—上空から見た 武田薬品湘南研究所と江の島海岸— (武田薬品パンフレットより転載)

「配当金のわずか4%を湘南研究所の排水処理装置設置に」との修正動議に 議長(武田社長)はマイクを取上げ発言妨害 武田薬品株主総会出席顛末記

6月24日、大阪で行われた武田薬品の第135回定期株主総会で、武田問題対策連絡会メンバー2名が出席し「一部配当金を削って湘南バイオ研究所の排水処理装置を作れ」という修正動議を提案しました。

＜提案理由は＞ 上記の写真に見るように、武田薬品新研究所と江の島海岸は、目と鼻です。武田薬品バイオ研究所から排出される、大量の創薬・バイオ・遺伝子組み換え・動物実験等の危険な排水を、自ら排水処理施設もたず、江の島海岸に排出するなどと言うことは許されないと言うのが今回の提案理由です。

＜動議の内容は＞ 普通株式1株90円の配当金を4円削って、総額約31億円を、湘南新研究所に未設置の排水処理施設の建設費に充てようというものです。

＜武田薬品長谷川社長の対応は＞ 最初の内は議長である武田薬品の長谷川社長も黙って聴いていたのですが、後半の企業の社会的責任の部分に入ると、突然「提案が長い」などと提案者に言いがかりつけ、発言を中止させ、マイクを取り上げてしまったのです。総会議長長谷川社長の不当な議事運営によって、動議は採決されないまま総会は終了してしまいました。

大勢の株主の前で武田研究所の問題点を発言出来たことのインパクトは大きく、それ故、動議の影響を怖れて発言を中止させたと考えられます。それにしても、今回、経済同友会代表幹事の立場にある長谷川社長の、良識ある小株主の提案を拒絶し、高圧的かつ独善的なやり方に、リーディングカンパニーらしからぬ度量の狭さと、武田薬品の将来性に不安を感じた株主が多かったと思っております。



(武田問題対策連絡会代表 小林麻須男、同幹事 木村直人)

